

<p>芸術・スポーツ</p> <p>keyword</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 世界一流テニス選手の各技術に関するバイオメカニクス的研究 □ ナショナルテニス選手の強化サポート体制の確立 □ 学生の体力・運動能力及び運動生活に関する研究
<ul style="list-style-type: none"> ■ 硬式テニス ■ 3次元 DLT 法 ■ バイオメカニクス ■ 世界一流テニス選手 ■ 医・科学サポート ■ ナショナルテニス選手 ■ 学生の体力・運動能力 	<p>課題解決に役立つシーズの説明</p>
	<p>世界一流テニス選手の技術・戦術及びナショナルテニス選手のコーチングについて、テニスの指導者・教員に役立つ知見の獲得や指導法の確立に資する研究を行っています。また、大学生における正課体育のあり方や重要性・必要性に関する研究も行っています。</p> <p>主な研究内容は、以下の通りです。</p>
<p>道上 静香 Shizuka Michikami</p> <p>経済学部 教授</p>	<p>【1】世界一流テニス選手の各技術に関するバイオメカニクス的研究</p> <p>本研究は、世界一流テニス選手の各技術を2台の高速度 VTR カメラを用いて撮影し、得られた映像を3次元 DLT 法により定量的に分析した後、定量化されたデータを規格化・平均化することで、世界一流テニス選手の基礎的技術抽出しようとするものである。分析手法に関しては、キネマティクスの分析を用いることにより世界一流テニス選手の持つフォームの特徴が、キネティクスの分析を用いることによりスウィング動作中に筋が発揮する正味の力や関節トルクを明らかにすることができる。また、近年では、エリートレベルテニス選手のゲーム戦術に関する分析も実施し、コートサーフェス別におけるゲーム内容の特徴を明らかにしている。</p> <p>論文：テニス選手のストローク動作のバイオメカニクスの分析—痛みなく、パフォーマンスを向上させる技術—。臨床スポーツ医学 34(5):422-426, 2017 他</p> <p>発表：砂入り人工芝コートを活用した日本テニス選手の育成・強化のための効果的な段階的指導法の提案。第 29 回テニス学会, 神奈川, 2017 他</p>
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1997 年 筑波大学大学院 体育研究科 修了 ●1999 年 筑波大学 体育センター 準研究員 ●2002 年 筑波大学 体育科学系 助手 ●2002 年 滋賀大学 経済学部 講師 ●2003 年 同 准教授 ●2012 年 同 教授 	<p>【2】ナショナルテニス選手の強化サポート体制の確立</p> <p>2005～2016 年度まで、代表コーチ及び代表監督として携わってきたユニバーシアード女子テニスチームの金メダル獲得のための強化サポート体制について定量的・定性的手法を用いて継続的に研究するものである。従来の研究では、ソフト面・ハード面の整備・充実、政治的なサポートや財源の確保、ゲーム・映像分析サポートの重要性、そして全人的な教育の必要性が明らかとなった。その後、日本代表チームは、第 26 回大会(2011/深圳)において女子ダブルスで金メダル、女子団体で銀メダル、混合ダブルスで銅メダル、第 27 回大会(2013/カザン)において女子シングルスと女子団体で金メダル、混合ダブルスで銀メダル、女子シングルスで銅メダル、第 28 回大会(2015/光洲)では女子ダブルスで銅メダル、第 29 回大会(2017/台北)では混合ダブルス金メダル、女子ダブルスと女子団体で銅メダルを獲得した。チームが継続的にメダル獲得に至った背景・要因を明らかにし、テニス選手の育成・強化のための基礎的知見の獲得を試みている。</p> <p>発表：第 29 回ユニバーシアード競技大会(2017/台北)における日本女子テニスチームの混合ダブルス金メダル獲得までの強化活動事例。第 29 回テニス学会, 神奈川, 2017 他</p>
<p>【専門分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ科学 ・身体運動の科学 ・スポーツ身体論 ・スポーツ方法論 ・スポーツバイオメカニクス <p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JOC強化スタッフ ・日本テニス学会 役員 	<p>【3】本学部における正課体育の重要性・必要性に関する研究</p> <p>本学部では、「新体力テスト(文部科学省)」を正課体育(スポーツ科学 I / 必修)の一環として位置づけ、分析・評価を実施している。体力に関しては「筋力」「全身持久的能力」「上肢及び下肢の筋パワー」の、基礎的運動能力では「投げる」「跳ぶ」の項目において低下が認められ、本学部学生の身体は非常にアンバランスな状態で発達していることがわかった。また、本学部の正課体育の歴史の変遷に基づき、体育・スポーツ科学の重要性・必要性についての検討を行った。本学部の正課体育では、近年の学生の体力レベルに即した体育授業を展開する必要があること、学生の体力改善や基礎的運動能力の獲得を目的とした授業展開を実施すること、高度な科学技術のために失われつつある身体性の重要性を認識した取り組みを実施すること、そして、学生の将来を見据え、健康と運動生活の関連性についての教育や生涯スポーツ教育などを実施していくことなどが明らかとなった。</p> <p>論文：滋賀大学経済学部で体育科目を学ぶ意義。彦根論叢 400:46-55, 2014 他</p>
	<p>企業・自治体へのメッセージ</p> <p>エリートテニス選手の技術・体力・戦術の改善・向上及び 関連する用具・ソフトウェアに関する共同開発・共同研究を希望します。</p>